

# ダイバーシティ社会推進、男女共同参画、市民活動・ボランティア等に関するアンケート実施報告書

「ダイバーシティ社会推進、男女共同参画、市民活動・ボランティア等に関するアンケート」の実施結果を次のとおりご報告いたします。アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆様に厚くお礼を申し上げます。

## アンケートの概要

### 1 アンケート実施期間

令和5年2月14日（火）～令和5年2月28日（火）

### 2 アンケート回収状況

対象者数 1,384名  
回答者数 836名  
回答率 60.4%

### 3 回答者属性

#### <年代別>

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
回答者数	5人	41人	97人	197人	222人	209人	65人
総数に占める割合	0.6%	4.9%	11.6%	23.6%	26.6%	25.0%	7.8%

#### <地域別>

地域	北勢地域	中勢地域	伊勢志摩地域	伊賀地域	東紀州地域
回答者数	424人	221人	99人	69人	23人
総数に占める割合	50.7%	26.4%	11.8%	8.3%	2.8%

※北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曾岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

中勢：津市、松阪市、多気町、明和町、大台町

伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町

伊賀：名張市、伊賀市

東紀州：尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町

## アンケートの結果

### 【Q1】「ダイバーシティ」について

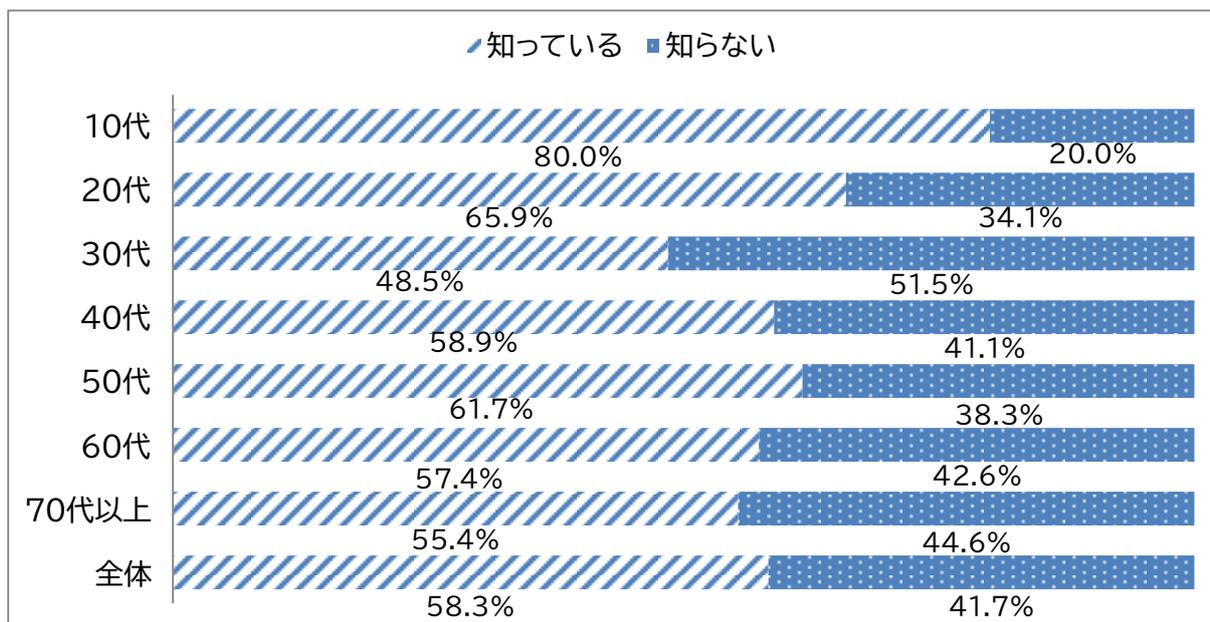
あなたは、以前から「ダイバーシティ」という言葉を知っていますか。「知らない」とお答えいただいた方は、Q3へお進みください。

「ダイバーシティ」という言葉を「知っている」と回答した方が58.3%（487人）となっています。

① 知っている	487人	58.3%
② 知らない	349人	41.7%

(回答者数： 836人)

「ダイバーシティ」という言葉を「知っている」と回答した方が半数以上となっています。



ダイバーシティという言葉についての認知度は50%を超えており、前年度からは3.5ポイント増加しています。

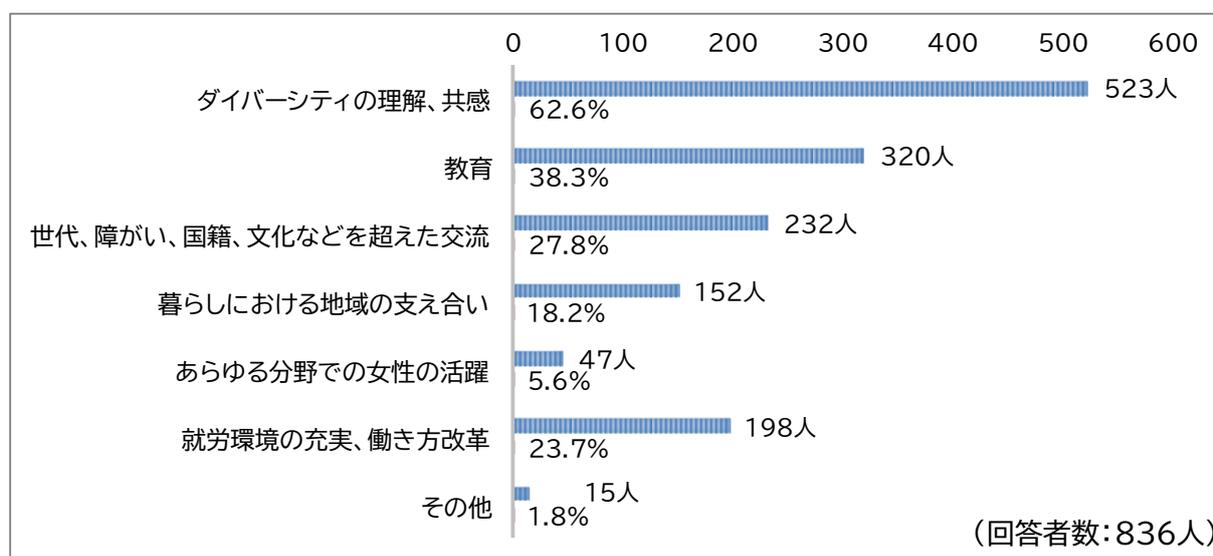
項目	R4	R3	R2	R4-R2
①知っている	58.3%	54.8%	55.0%	3.3
②知らない	41.7%	45.2%	45.0%	▲3.3

## 【Q2】ダイバーシティ社会の実現について

性別や年齢、障がいの有無、国籍等に関わらず、多様な人々が社会参画し、活躍できる社会「ダイバーシティ社会」の実現のために、さまざまな取組が必要であると考えます。これらの取組を県民の皆さんとともに進めるうえで、あなたは、県の取組として何を優先すべきであると思いますか。主なものを2つまで選んでください。

「ダイバーシティの理解、共感」と回答した方が 62.6% (523 人) と最も高く、次いで「教育」が 38.3% (320 人)、「世代、障がい、国籍、文化などを越えた交流」が 27.8% (232 人) などとなっています。また、「その他」の自由記載では、次のようなご回答をいただいています。(一部のみ)

- ・「ダイバーシティ」という言葉は理解しづらい。「人間としての多様性」などわかりやすい言葉で始めてはどうか。
- ・性別国籍等の違いを超えて、一人一人の人間を大切に考える考え方を持つ。



また、年代別の回答でも、全ての年代で「ダイバーシティの理解、共感」「教育」と回答した方の割合が高い傾向があります。

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
ダイバーシティの理解、共感	44.4%	28.2%	26.7%	36.5%	35.5%	37.7%	37.7%
教育	44.4%	29.6%	23.8%	25.0%	18.4%	19.0%	19.7%
世代、障がい、国籍、文化などを越えた交流	0%	8.5%	12.8%	13.8%	17.6%	17.9%	16.4%
暮らしにおける地域の支え合い	0%	5.6%	9.3%	7.8%	12.7%	11.6%	9.8%
あらゆる分野での女性の活躍	0%	7.0%	7.0%	1.4%	2.3%	2.9%	4.1%
就労環境の充実、働き方改革	11.1%	19.7%	19.2%	14.7%	13.0%	9.5%	10.7%
その他	0%	1.4%	1.2%	0.9%	0.5%	1.3%	1.6%

### 【Q3】ダイバーシティ社会の実現について

あなたは、外国人住民が地域社会の一員として共に暮らせる社会になっていると感じますか。もっとも近いものを1つ選んでください。

①感じる	26人	3.1%
②どちらかといえば感じる	291人	34.8%
③どちらかといえば感じない	306人	36.6%
④感じない	103人	12.3%
⑤わからない・不明	110人	13.2%

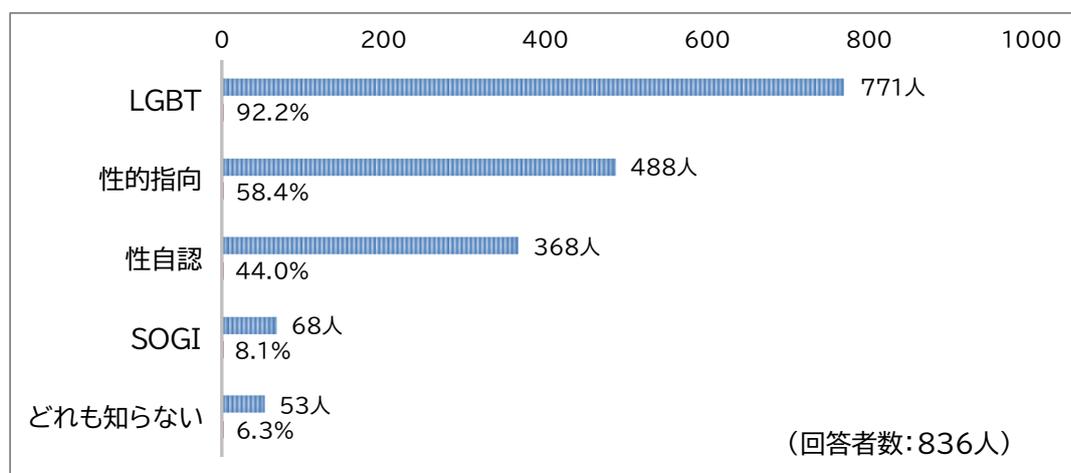
(回答者数：836人)

「感じる・どちらかといえば感じる」と回答した方は317人(37.9%)、「どちらかといえば感じない・感じない」と回答した方は409人(48.9%)となっています。

### 【Q4】性のあり方の多様性について

次の言葉のうち、言葉も内容も知っているものはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

「LGBT」という言葉を知っていると回答した人は92.2% (771人)、「性的指向」という言葉を知っていると回答した人は58.4% (488人)、「性自認」という言葉を知っていると回答した人は44.0% (368人)と、認知が広がっている一方、「SOGI」という言葉の認知度は低い結果となっています。



年代別の回答でも、全ての年代で「LGBT」という言葉が比較的好く知られていることがわかります。

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
LGBT	45.5%	35.8%	39.7%	44.0%	45.0%	48.1%	43.8%
性的指向	27.3%	29.4%	26.6%	29.6%	27.7%	27.3%	26.2%
性自認	27.3%	27.5%	26.6%	21.2%	20.3%	17.2%	19.2%
SOGI	0%	6.4%	5.2%	3.1%	4.1%	2.8%	4.6%
どれも知らない	0%	0.9%	1.7%	2.2%	2.8%	4.6%	6.2%

### 【Q5】性のあり方の多様性について

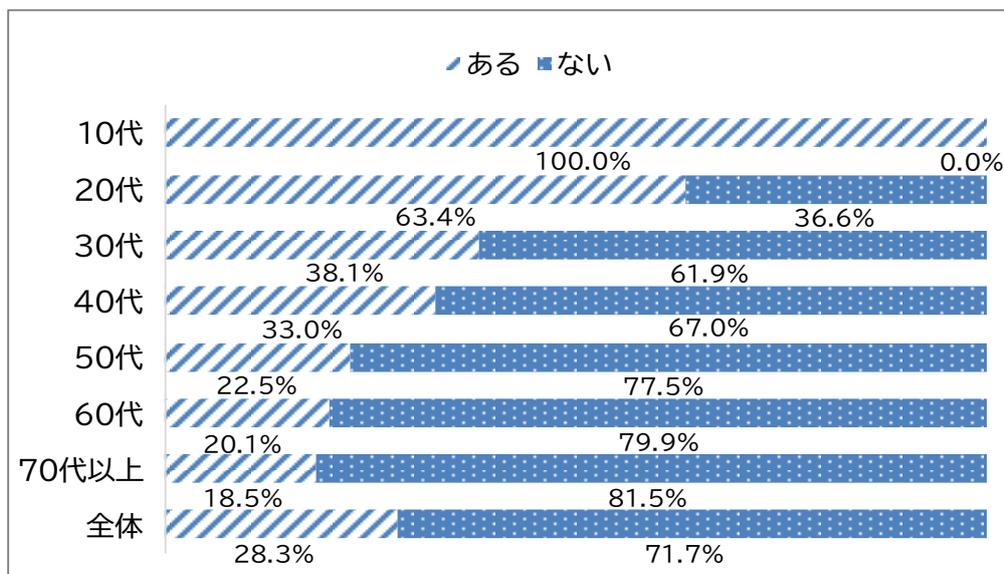
あなたは、多様な性的指向・性自認やLGBTなどについて、これまで学んだことはありますか。

「学んだことがある」と回答した方が28.3%（237人）となっています。

① 学んだことがある	237人	28.3%
② 学んだことはない	599人	71.7%

（回答者数：836人）

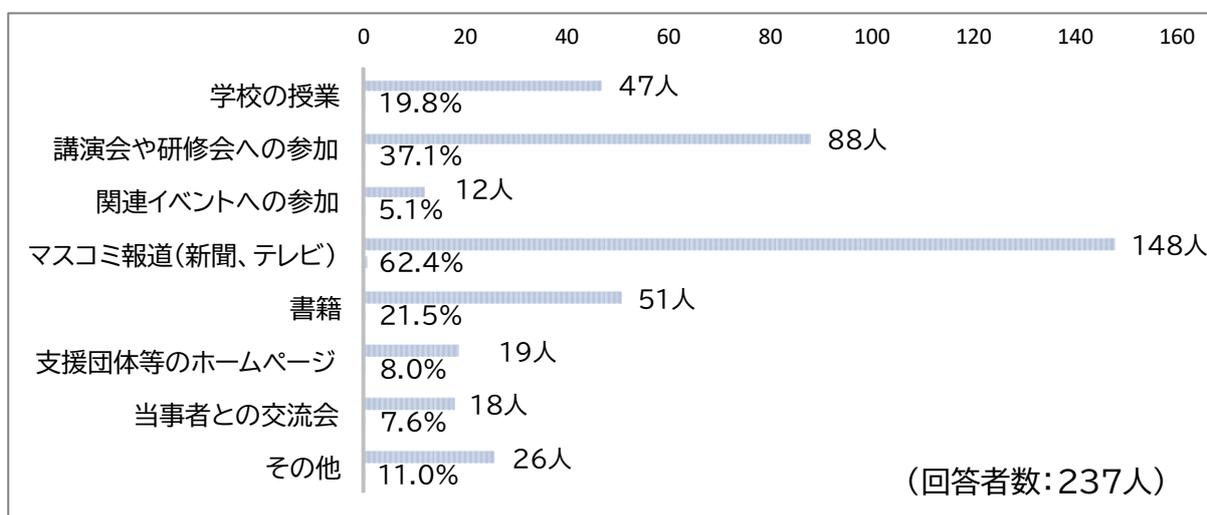
回答した方の割合を年代別に見ると、年代が上がるにつれて「学んだことがある」と回答した方の割合が低くなる傾向があります。



### 【Q6】性のあり方の多様性について

Q5で「ある」を選んだ方にお聞きします。あなたは、これまでにどのような場で学んだことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

Q5で「学んだことがある」と回答した方（237人）のうち、「マスコミ報道（新聞、テレビ）」と回答した方が62.4%（148人）と最も多く、次いで、「講演会や研修会への参加」が37.1%（88人）、「書籍」が21.5%（51人）などとなっています。また、「その他」の自由記載では、「職場の研修」の回答が多くあります。



（回答者数：237人）

年代別の回答では、10代から20代では「学校の授業」と回答した割合が高くなっています。また、30代以上では「マスコミ報道（新聞、テレビ）」「講演会や研修会への参加」の割合が高くなっています。

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
学校の授業	63.0%	38.6%	17.9%	8.9%	1.2%	2.4%	4.0%
講演会や研修会への参加	0%	9.1%	19.4%	26.7%	24.4%	24.4%	16.0%
関連イベントへの参加	0%	0%	1.5%	3.0%	4.9%	3.7%	4.0%
マスコミ報道(新聞、テレビ)	25.0%	29.5%	28.4%	37.6%	39.0%	42.7%	36.0%
書籍	13.0%	13.6%	11.9%	10.9%	9.8%	14.6%	20.0%
支援団体等のホームページ	0%	2.3%	4.5%	3.0%	4.9%	7.3%	8.0%
当事者との交流会	0%	4.5%	6.0%	4.0%	6.1%	2.4%	4.0%
その他	0%	2.3%	10.4%	5.9%	9.8%	2.4%	8.0%

### 【Q7】性のあり方の多様性について

あなたは、「性の多様性を認め合い、誰もが安心して暮らせる三重県づくり条例」（令和3年4月1日施行）を知っていますか。

①知っている	44人	5.3%
②名前は聞いたことがある	138人	16.5%
③知らない	654人	78.2%

(回答者数：836人)

知らないと回答した人は、654人（78.2%）で、条例を認知している割合はかなり低い状況となっています。

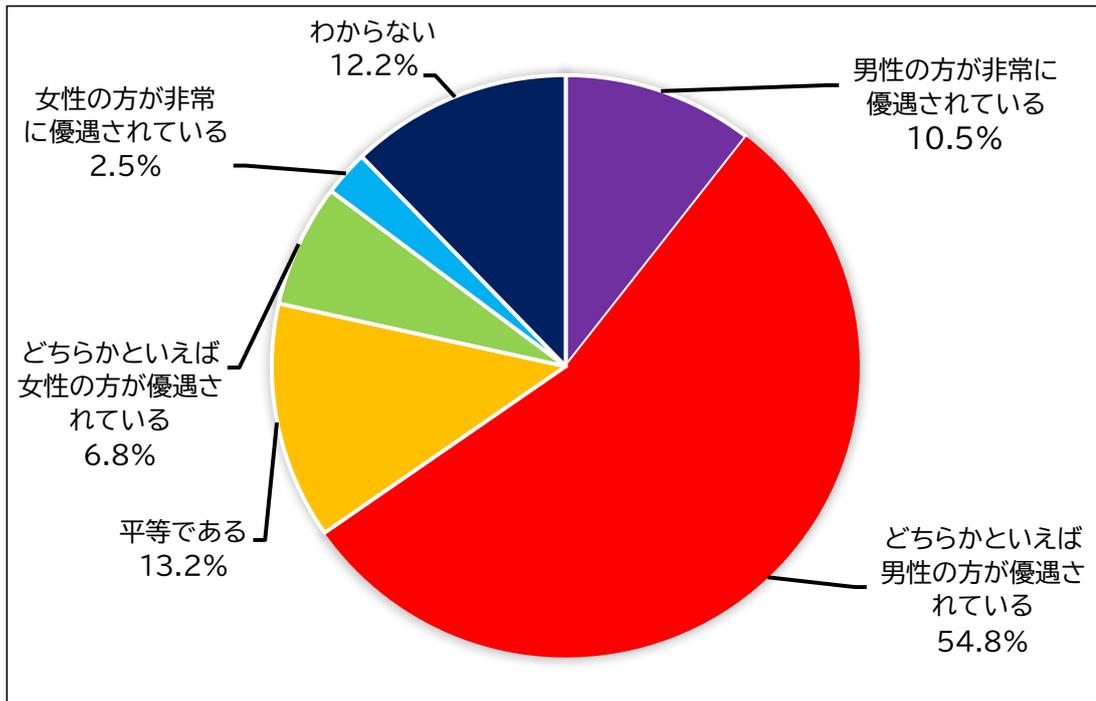
【Q8】性別について

男女の性別によるアンケート結果の分析のため、あなたの性別（自認する性）をお答えください。なお、選択肢がない場合は回答不要です。

男性…52.2% 女性…47.8%

【Q9】男女平等について（社会全体）

あなたは、社会全体で、男女の地位が平等になっていると思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。



「平等である」の割合は13.2%で、昨年の13.9%より0.7ポイント減少、一昨年の12.5%より0.7ポイント増加しています。

性別による優遇感については、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は65.3%で、昨年の66.6%より1.3ポイント、一昨年の68.3%より3.0ポイント減少しており、平等感が増加するとともに、男性の優遇感が減少していることが窺えます。

項目	R4		R3		R2		R4-R2
男性の方が非常に優遇されている	10.5%	65.3%	11.5%	66.6%	13.0%	68.3%	▲3.0
どちらかといえば男性の方が優遇されている	54.8%		55.1%		55.3%		
平等である	13.2%		13.9%		12.5%		0.7
どちらかといえば女性の方が優遇されている	6.8%	9.3%	6.8%	7.9%	6.6%	8.0%	1.3
女性の方が非常に優遇されている	2.5%		1.1%		1.4%		
わからない	12.2%		11.6%		11.2%		1.0

回答者の男女別に比較すると、「平等である」の割合は、男性が 14.7%に対して女性が 11.3%と 3 ポイント以上の差があり、女性に比べて男性の方が平等感が高い傾向にあります。

また、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、男性が59.9%に対して女性が71.1%と 11 ポイント以上の差があり、昨年度よりその差は小さいものの、女性の方に不平等感が高い傾向は変わりません。

### <男女別>

項 目	男性				女性			
	R4	R3	R2	R4-R2	R4	R3	R2	R4-R2
男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている	59.9%	58.6%	64.0%	▲4.1	71.1%	74.4%	72.2%	▲1.1
平等である	14.7%	17.2%	17.5%	▲2.8	11.3%	10.8%	7.4%	3.9
どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	14.7%	12.1%	9.1%	5.6	3.6%	3.8%	7.0%	▲3.4
わからない	10.6%	12.1%	9.5%	1.1	14.1%	11.1%	9.0%	5.1

年代別に比較すると、「平等である」の割合は、年代により差異はあるものの、はっきりとした傾向は見られません。

また、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合は、年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られます。

### <年代別>

項 目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている	60.0%	51.2%	51.5%	59.9%	68.1%	75.6%	69.3%
平等である	20.0%	19.5%	16.5%	11.7%	13.1%	10.0%	18.5%
どちらかといえば女性の方が優遇されている 女性の方が非常に優遇されている	20.0%	0%	13.4%	12.7%	9.5%	6.2%	7.7%
わからない	0%	29.3%	18.6%	15.7%	9.5%	8.1%	4.6%

## 【Q10】男女平等について（理由）

Q9で「平等である」以外を選んだ方にお聞きします。なぜあなたはそのように思いますか。

「平等である」以外を選択された方に対し、優遇されていると考える理由をたずねたところ、次のようなご意見をいただいています。（一部のみ）

（「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）

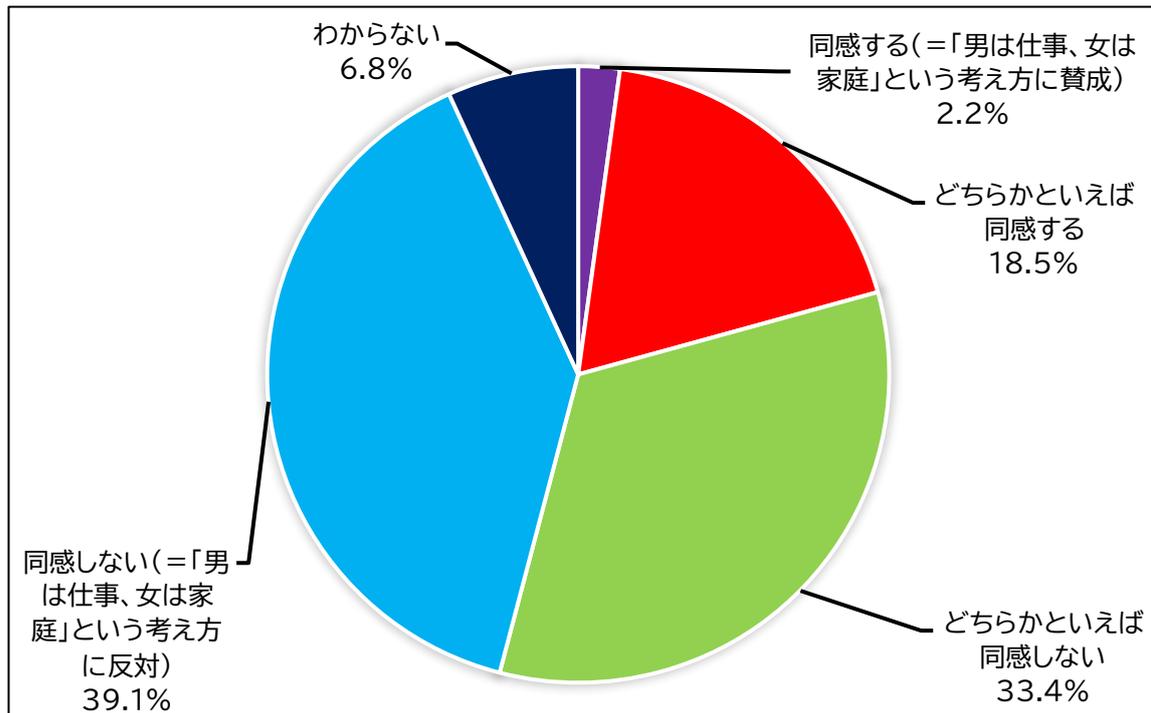
- ・地域の活動で、自治会、自主防災会等の役員の大多数は男性である。
- ・会社組織の中での女性の立場は男性より低く、待遇もどちらかというとい低い。
- ・政治社会の中で女性の進出が少ない。女性リーダーに、まだ女性を感じさせるところがある（個人としての資質、大きさを感じる事が少ない）。経済界を見ても、まだ女性のトップリーダーが少ない。
- ・女性はどうしても家事、育児、介護などに縛られて働ける時間が限られている。平等ではないと思う。
- ・女性の結婚、妊娠、出産で仕事を辞すことが避けられないことがある。
- ・まだまだ仕事に関しては待遇や給料面では男性の方が優遇されていると思う。
- ・管理職は、男性が多い。
- ・日本の古来からの文化として、男尊女卑の意識がまだ残っている。
- ・子供会やPTAや参観などの子供に関わる行事や組織で母親が参加する割合が圧倒的。
- ・仕事における昇格の早さが違うと思う。女性の方が遅い。
- ・社会や組織の中堅から年配層に平等意識がないと感じる。

（「女性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」）

- ・女性優遇のサービスが多い。
- ・女性が弱い立場という認識から、過度な配慮が成される場面が多い。
- ・昔は男性の方が優遇される社会であった為、今は女性の方を優遇しないと、という方向性が強く、女性の方が優遇されている面が多くなってきていると感じる。
- ・男性（父親）の休みが取りにくい（言いにくい）環境にあるのかと思うから。

【Q11】「男は仕事、女は家庭」という考え方について

「男は仕事、女は家庭」のように性別によって役割を固定する考え方について、あなたは  
どう思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。



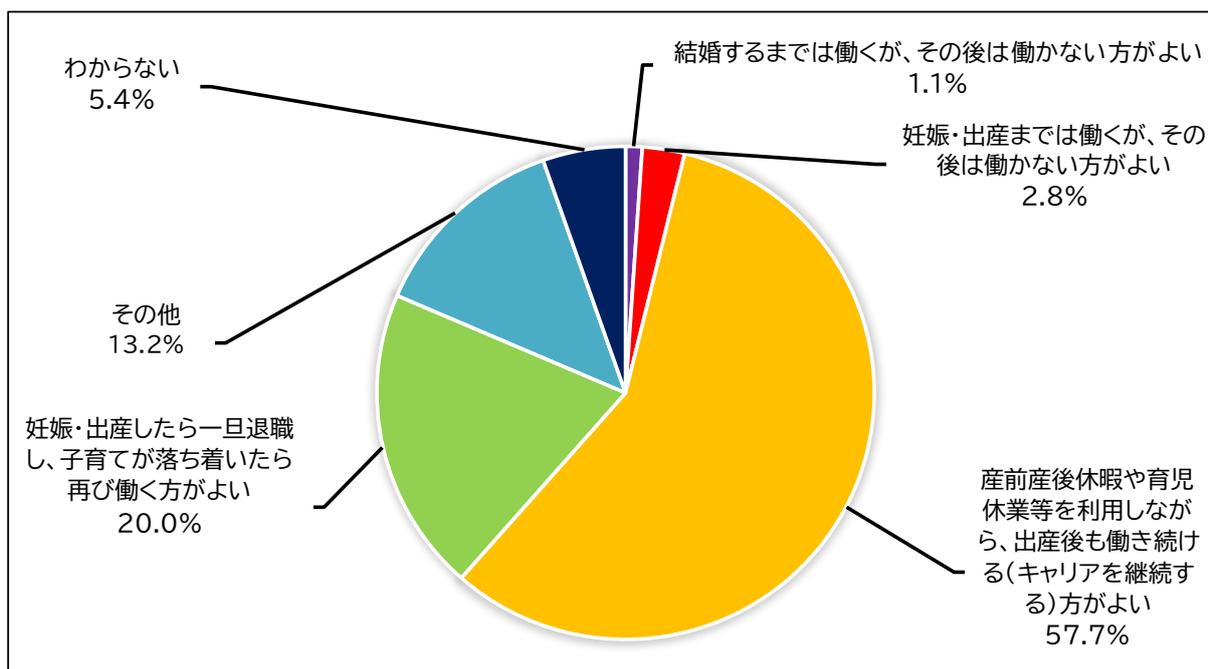
「同意しない(=「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対)」「どちらかといえば同意しない」を合わせた割合は72.5%で、昨年の71.6%より0.9ポイント増加、一昨年の71.5%より1.0ポイント増加しています。

一方で、「同意する(=「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成)」「どちらかといえば同意する」を合わせた割合は20.7%で、昨年の21.5%より0.8ポイント減少しています。

項目	R4	R3	R2	R4-R2
同意する(=「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成) どちらかといえば同意する	20.7%	21.5%	19.7%	1.0
どちらかといえば同意しない 同意しない(=「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対)	72.5%	71.6%	71.5%	1.0

【Q12】女性の働き方について（考え方）

あなたは、女性が結婚・出産した場合の働き方についてどのようにお考えですか。あてはまるものを1つ選んでください。



昨年同様、「産前産後休暇や育児休業等を利用しながら、出産後も働き続ける（キャリアを継続する）方がよい」という「継続型」の回答割合が最も高く、57.7%を占めています。

一方、「妊娠・出産したら一旦退職し、子育てが落ち着いたたら再び働く方がよい」という「中断型」の回答割合は20.0%と、昨年の21.8%から1.8ポイント減少、一昨年の21.5%から1.5ポイント減少しています。

また、「その他」を選択された方からは、「本人の意思を尊重する」「個人が希望する働き方を自由に選択出来れば良い」といったご意見をいただいています。

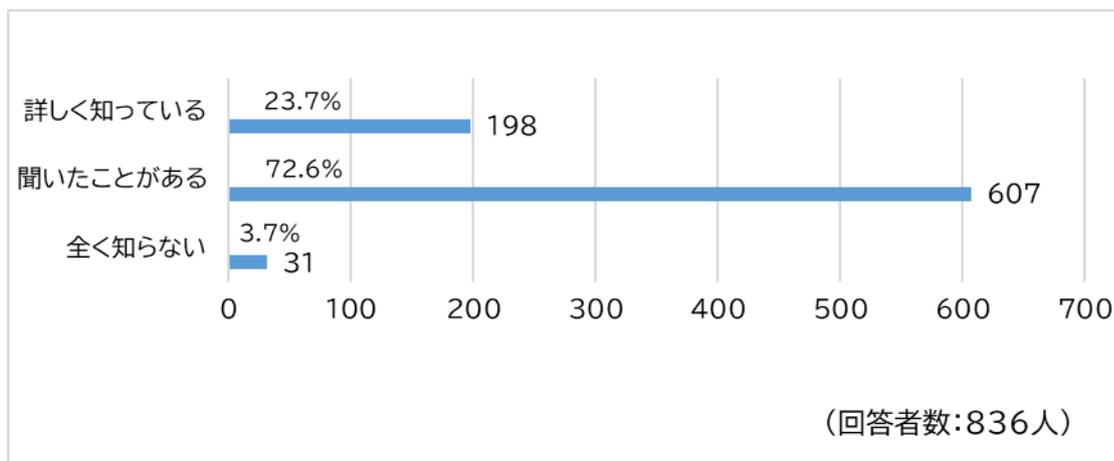
項目	R4	R3	R2	R4-R2
結婚するまでは働くが、その後は働かない方がよい	1.1%	1.1%	1.1%	0
妊娠・出産までは働くが、その後は働かない方がよい	2.8%	1.2%	1.6%	1.2
産前産後休暇や育児休業等を利用しながら、出産後も働き続ける（キャリアを継続する）方がよい	57.7%	59.9%	60.1%	▲2.4
妊娠・出産したら一旦退職し、子育てが落ち着いたたら再び働く方がよい	20.0%	21.8%	21.5%	▲1.5
その他	13.2%	9.9%	11.6%	1.6
わからない	5.4%	6.1%	4.1%	1.3

### 【Q13】 NPOについて

ここからは、市民活動・ボランティア等についてお聞きします。

あなたはNPO（法人格がある・なしを問いません）を知っていますか。

NPOとは、さまざまな社会貢献活動をする民間非営利団体の総称です。



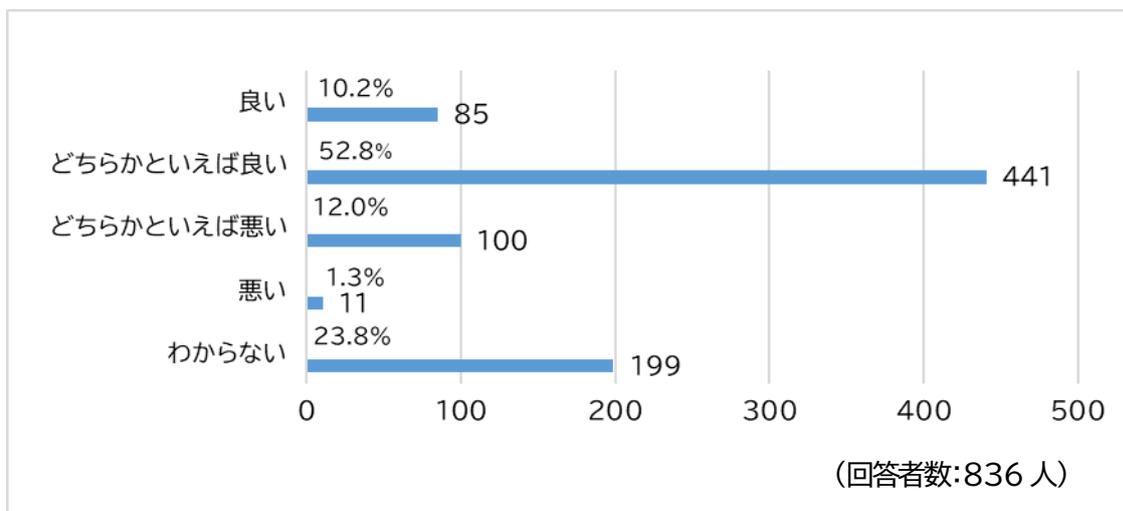
「聞いたことがある」と回答した方が、72.6% (607人) と最も多く、次いで「詳しく知っている」23.7% (198人) であり、NPOについて知っている方は96.3%となっています。

#### <年代別>

項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
詳しく知っている	40.0%	17.1%	18.6%	21.8%	18.9%	25.8%	49.2%
聞いたことがある	60.0%	78.0%	78.4%	73.1%	75.7%	72.2%	50.8%
全く知らない	0%	4.9%	3.1%	5.1%	5.4%	1.9%	0%

### 【Q14】 NPOのイメージについて

あなたはNPOにどんなイメージを持っていますか。



NPOのイメージについて、「良い」10.2% (85人)、「どちらかといえば良い」52.8% (441人) であり、合わせて63%の方が良いイメージを持っていると回答しています。

### 【Q15】NPOへのイメージについての理由

Q14 で選択した理由について、どんなことでもかまいませんので、ご自由にお書きください。

次のようなご意見をいただいています。（一部のみ）

（「良い」「どちらかといえばよい」）

- ・基本的に、より公正でよい社会の実現に向けて、営利、私利を離れた立場から活動に取り組んでいるように思う。
- ・社会貢献活動を積極的に行っている。
- ・さまざまな地域のための活動を行っている。
- ・国が直ぐにできないような事項を代わりに実施することができる。
- ・社会を変える一つの選択肢。

（「悪い」「どちらかといえば悪い」）

- ・非営利活動ということで、そこで働く人に対する待遇が悪いようなイメージがある。働く人の良心に頼って活動しているイメージがある。
- ・何をしているかよくわからない。
- ・良い活動をしている団体も多いが、信用できないNPOが多く存在し、全体的な印象は悪い。
- ・活動している人たちは、自己満足でしている人が多いように感じる。